

## (4) 令和6年度研修計画

令和5年度就業前長期研修シラバス改善点

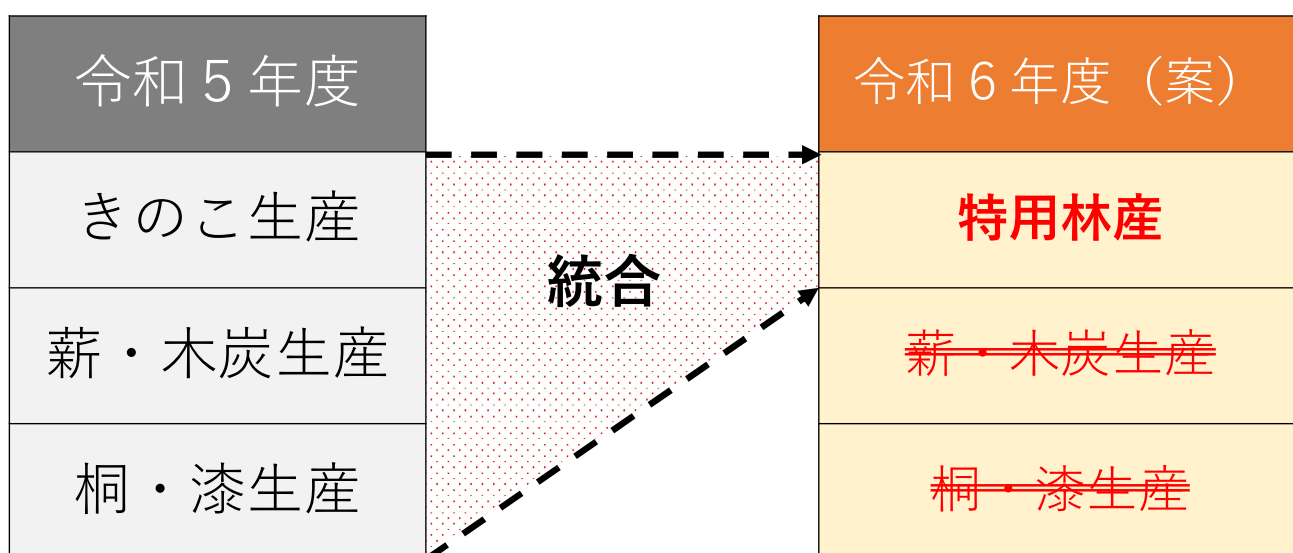
# 改善点 1 科目の統合

令和 5 年度			令和 6 年度 (案)			
幅広い知識の習得 (1) 森林・林業に関する	森林林業の基礎	統合	幅広い知識の習得 (1) 森林・林業に関する	<b>森林・林業</b>		
	樹木学			林産利用		
	森林保護			<b>林業経営・ 先端林業技術等</b>		
	林産利用					
	林業経営					
	先端林業技術			統合	(2) 森林作業技術の 習得	造林・育林
	放射性物質対策					伐木・造材
(2) 森林作業技術の 習得	造林・育林	統合	(2) 森林作業技術の 習得	測量・測樹		
	伐木・造材			<b>林業機械・路網</b>		
	測量・測樹					
	林業機械			安全衛生		
	林内路網					
	安全衛生					

## 科目を統合した理由

- 1 試験等の単位となる科目において類似する分野の講義単位で再統合した。

## 改善点 2 「特用林産」の創設



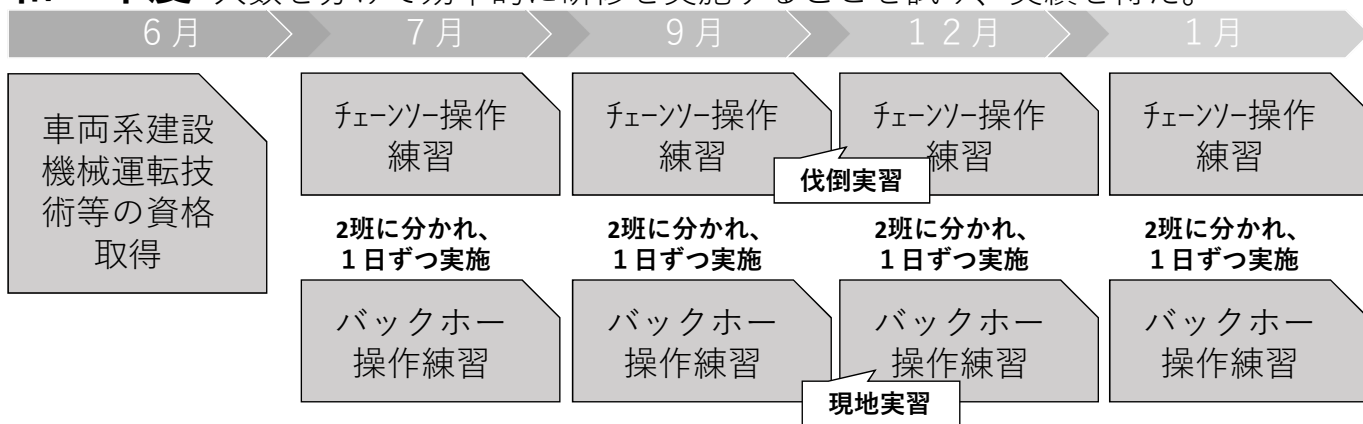
### 特用林産を創設した理由

特用林産に関する講義は「きのこ生産」「薪・炭生産」「桐・漆生産」に分かれていたが、座学や実習・見学を統合して実施する形に見直したことから「特用林産」として統合した。

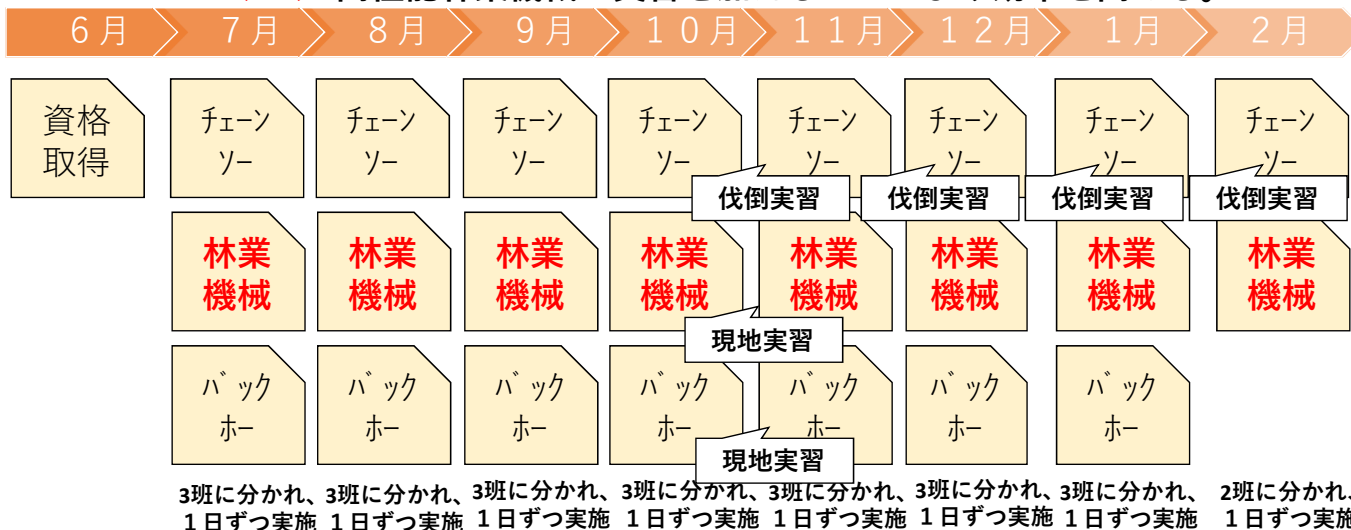
# 改善点 3

## より効率的に技術を身に付ける実習へ

**令和5年度** 人数を分けて効率的に研修を実施することを試み、実績を得た。



**令和6年度 (案)** 高性能林業機械の実習を加えることでより効率を高める。



# 改善点 4 より実践的な技術の習得へ

## その1 チェーンソー伐木造材技術

令和4年度 課題：現場経験のある講師の不足、研修日数の少なさ



令和5年度 実施策：現場のプロを講師に招き、月1～2回の研修を実施  
立木伐倒の機会も増やした。  
課題：月2回はチェーンソーに触れたいという研修生の要望



### 令和6年度（案）

解決策1 実習を206時限から**238**時限へ増加

解決策2 時限数を増やすため、プロの講師人数を増加



## その2 下刈り実習

**令和4年度** 課題：4月の安全衛生教育から7月の研修まで刈払機に触れる機会  
**令和5年度** が一切無く、講師（森林組合）に刈払機の簡単な動かし方から教わることになり、**現場での実践的な作業方法を教わる時間が少なかった。**さらに、**実習後に復習する機会もなかった。**



### 令和6年度（案）

解決策1 実習を18時限から**35**時限へ増加  
実習前に刈払機の動作方法を**復習する日**と実習後に**自主練習する日**を設けた。



## その他の改善点

### その1 チェーンソー伐木造材技術等、増変更した研修時間を確保するため時間数を見直したものの。

- 架線集材      シラバスの様式に合わせるために119時限から105時限に減変更となっているが、研修日数を減らした代わりに終了時間を長くするため、実質上の変更はない。
- 社会人教養      これまでの自己学習の時間も実質的にチェーンソーの練習時間に当てることが多かったため、自己学習の時間を1日チェーンソー伐木造材技術の時間に変更した。
- 森林文化      2日のうち、1日をチェーンソー伐木造材技術の時間に変更した。

## その2 実績に合わせた変更

### ○育苗

今年度、講師から成長して出荷する前の苗木も見てもらいたいとの提案があり、7月に加えて10月も講義を行った。  
令和6年度も同様に2回講義を行うため時間増とした。

## その3 実習現場変更に伴う作業時間の増

### ○造林・更新（植付実習）

昨年度まで林業研究センター会津圃場（喜多方市）の草地で植え付け実習を行っていたが、今年度伐採実習した場所に変更を予定しており、作業量が増大するため、地拵えの時間を1日増やした。

## その4 研修内容の統合

### ○間伐（選木実習）

間伐木選定実習は、実習箇所の毎木調査を実施した後間伐木を選定し間伐率などを求めていたが、立木調査の実習と間伐木選定の実習を同じ箇所で実施することで、毎木調査が不要となることから時間減とした。